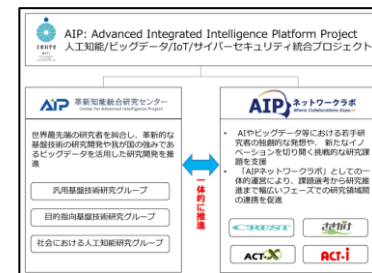


理研AIPセンター 10年の振り返りと今後の方向性

センター長 杉山 将

■ 文科省AIPプロジェクト (2016-2026) の研究拠点 :

- 科学技術振興機構AIPネットワークラボと一体的に推進



■ 研究グループ :

- 汎用基盤技術研究グループ (杉山)
- 目的指向基盤技術研究グループ (上田)
- 社会における人工知能研究グループ (橋田)



■ 理研AIPセンターの運営ビジョン :

- 機械学習の技術を軸足に、基礎から応用・社会まで一気通貫の研究体制
- 産学官で連携し、研究成果を国際的に発信
- 国際的な高度AI人材の登竜門を目指す

研究拠点



日本橋オフィス

■ 目標:

1. 最先端の機械学習技術の**原理の解明**
2. 既存技術では対応できない難問を解決する,
新たな機械学習技術の創出
3. 日本の機械学習研究の**国際的な認知度の向上**

■ 研究成果:

1. 深層ニューラルネット, トランスフォーマー, 拡散モデルなどの**高い予測・推論・生成能力を数学的に証明**. スペース最適化, 多段階最適化, 超高次元最適化などに対する**理論保証付き最適化法を開発**.
2. **不完全な教師情報**だけからでも学習可能な技術, **データから因果関係を推論**できる技術, 不確定性を考慮した**大規模適応学習技術**を開発.
3. 上記の成果が評価され, ICLR, AISTATS, ICCOPT等の**主要国際会議で基調講演**を実施. NeurIPS, ICML, ICLR, AISTATS, ISMP等の**理事・運営委員長**等に選出.

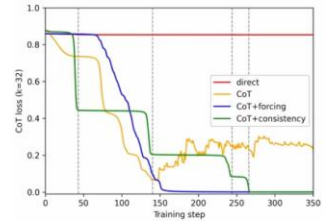


鈴木 大慈

思考連鎖を用いてトランスフォーマーがパリティ問題を効率的に解決できることを証明

[Kim, Suzuki, ICLR2025, Oral]

「思考連鎖 (Chain of Thought)」を明示的に生成させる学習を行うことで、トランスフォーマーは多項式時間・データ量でパリティ問題を効率的に学習・解決できることを理論的に証明し、**AIの学習効率を大幅に改善**。



思考連鎖による学習効率化の測定グラフ



武田 朗子

多レベル最適化の未解決問題を肯定的に解決

[Okuno et al., JRML2021, Sato et al., NeurIPS2021]

一部の変数が別問題の最適解となる多レベル最適化に対し、微分不可能な2レベルおよび微分可能な多レベル問題について、**最適性保証付きの解法を初めて提案**した。学習システムの信頼性向上に資すると期待。

$$\begin{aligned} \min_{x, y, z} f(x, y, z) \\ \text{s.t. } y \in \arg \min_{y', z'} g(x, y', z') \\ \text{s.t. } z' \in \arg \min_{z''} h(x, y', z'') \end{aligned}$$

3レベル最適化問題

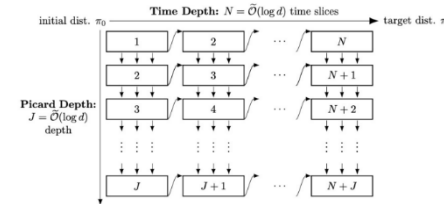


杉山 将

高次元データのサンプリング効率を劇的に向上させる新しい並列化手法を考案

[Zhou, Sugiyama, ICML2025, Spotlight]

拡散モデル等における計算の複雑性を大幅に改善し、**反復複雑性を理論的な最適近似値までの低減**とともに逐次手法と比較し**大幅な計算時間の短縮**が期待。



提案する並列計算法の模式図



清水 昌平

AIをさらに発展させる因果推論の新技术を開発

[Maeda and Shimizu (UAI2021, 2024), Pham, Maeda, Shimizu (AISTATS2026)]

従来は、因果構造が既知である必要であったが、潜在共通原因があっても**データ駆動で因果構造を探索する新技术を開発**。

$$x_i = \sum_{j: x_i \text{の親}} f_{ij}(x_j) + \sum_{k: x_i \text{の親}} g_{ik}(u_k) + e_i$$



向き・交絡の「存在」が識別可能

■ 目標:

- AIによるサイエンス研究の加速
- 社会課題解決への貢献

■ 研究成果:

- **医療AI**: Nature Communications / Nature Aging 等で成果。がん再発予測、ALS超早期検知、アルツハイマー多遺伝子機構を解明。内視鏡AI・胎児心エコーAIの薬事承認、1.5万症例心臓CT解析へ展開。
- **防災・高齢社会**: 富岳全系地震シミュレーションで計算防災基盤を確立。津波リアルタイム予測(Nature Communications)、物理制約DLによる地殻変動解析、全球災害評価ベンチマークを国際展開。
- **遺伝・バイオ**: 科学的発見の信頼性理論をICML・NeurIPSで確立。2型糖尿病遺伝リスク(Nature Genetics)、うつ病脳回路(Molecular Psychiatry)、196万人骨関節症ゲノム解析(Nature)に貢献。
- **メディア・知識処理**: CVPR・NeurIPS・EMNLPで世界初／最高性能。3D再構成・高速位置合わせ、記述式答案自動採点の商用化。結晶構造推定・AI作曲支援へ展開。

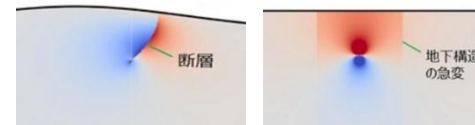


上田 修功

物理制約付き深層学習による地殻変動解析を高度化

[Okazaki et al., Nature Communication 2022]

非線形ダイナミクスを組み込んだメッシュフリー解析を実現し、**逆問題展開可能な解析基盤を確立**。これまで困難であった複雑な地下構造など、多様な問題設定における地震解析が原理的に実現可能。



本手法による地殻変動の解析結果



竹内 一郎

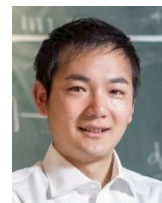
科学研究データ分析パイプラインの信頼評価技術構築

[Shiraishi, Matsukawa, Nishino, Takeuchi, ICML2025, Oral]

AIが発見した仮説の「**本当らしさ**」を統計的に検証する理論を構築。既存手法を大きく上回る検出力を実現し、Pythonツールも公開。



各研究者の知見の信頼性を評価

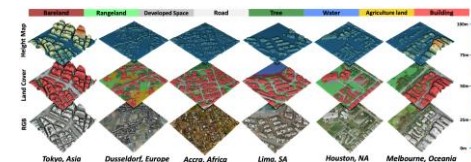


横矢 直人

全球超高解像度3D土地被覆地図作成の自動化

[Song et al., NeurIPS2024]

学習データ地域格差を克服し、**全球で機能する地図生成モデルを確立**。災害対応への即時応用基盤を整備。



単眼画像による土地被覆分類と高さ推定の3D可視化



原田 達也

医療用基盤モデルの開発

[Zhang et al., ECCV2024, CVPR2025]

異なるデータや未知カテゴリを統合できる新問題設定を世界で初めて定義し、実環境で使える知識統合理論を用い、心機能の定量化による心疾患総合診断・治療支援システム構築。



目的指向基盤技術研究グループの主要な成果②

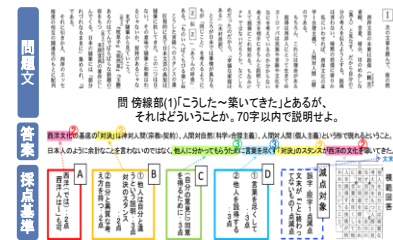


乾 健太郎

記述式答案を自動採点するAI技術の開発

[代々木ゼミナールと共同でAI採点問題集を開発、2021年7月販売開始（世界初の商用化）]

記述問題をAIが即時採点し、根拠提示や評価項目別得点も出力。
世界初の商用展開を実現。



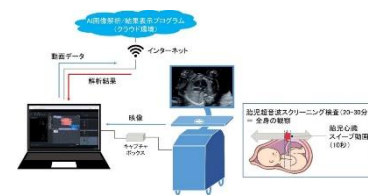
記述式答案自動採点



浜本 隆二

胎児心臓超音波スクリーニング支援システムの薬事承認

世界に先駆けて胎児心臓超音波スクリーニング支援システムを開発、AI搭載医療機器プログラムとして薬事承認された（医療機器承認番号：30600BZX00155000）
妊婦健診での胎児の心臓超音波検査をAIが支援し、経験の浅い医師でも正確な診断が可能に。2025年に富士通より上市。



浜中 雅俊

AI校歌生成プロジェクト（桑名市多度学園、2026年4月開校）

[日本経済新聞他、主要メディアで広く報道]

音楽構造に基づいてメロディを生成するAI作曲支援ツールを使い、AI作曲体験授業を通して素材を収集。30万件超の組み合わせから、AIが歌詞とメロディの適合度を評価し、上位100案を基に作曲家とともに校歌を完成。



AI作曲支援ツール

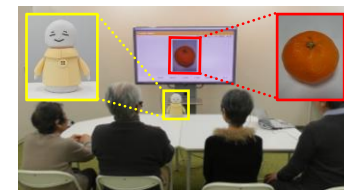


大武 美保子

対話ロボットを用いた健常高齢者への認知機能介入

[Tokunaga et al., JMIR Aging 2024]

会話支援手法共想法に立脚した対話ロボットを用いた実証実験を実施し、**ロボットの話題提示に基づき質問を行う介入の効果を検証**した。言語流暢性への影響が示唆され、長期介入による効果が期待。



実験の様子

■ 目標:

- AIと人間社会の持続可能な共生基盤の構築
(技術・倫理・経済・制度・文化の統合)

■ 研究成果:

- **セキュリティ**: モデルマージ防御、秘密計算・差分プライバシー、敵対的攻撃耐性
- **公平性・説明可能性**: Demographic Parity最適回帰、fairwashing分析、医療AIの説明可能分類
- **情報空間の健全性**: 偽誤情報回避行動、生成AIデータ汚染評価、ダークパターン影響分析
- **データ駆動型行政**: 因果推論・バイアス補正・政府統計融合、AIと労働市場分析
- **人間-AI共生設計**: 利用時品質モデル、人間中心設計、AI責任・法的人格
- **AIガバナンス**: EU AI法整合標準、パーソナルAI普及、認知的オフローディング対策(グラフ文書)

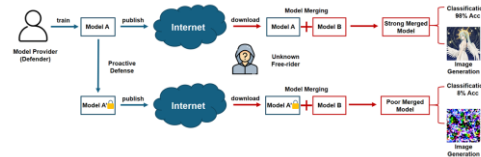


佐久間 淳

世界初のモデルマージに対するプロアクティブ防御

[Junhao et al., ICCV2025]

モデルマージ時に不正モデルが混入するリスクに対し、**プロアクティブ防御手法を提案**。画像生成モデル、大規模言語モデルに適用可能なため基盤技術として期待。



荒井 ひろみ

公平な判断の機械教示

[Yang et al., CHI2024]

公平性を考慮したAIが、意思決定前に「公平な判断基準」を人に提示することで、**人間のバイアスを修正する“機械による教示”手法を提案**。



橋田 浩一

パーソナルデータの分散管理による活用

[埼玉県、東京大学との共同研究]

個人主体のデータ共有システムを推進。分散型PDS(データ主体本人だけがデータの管理者であるようなデータ管理の仕組み)であるPLR (Personal Life Repository)を開発、埼玉県教育局が2020~2023年度に実運用。

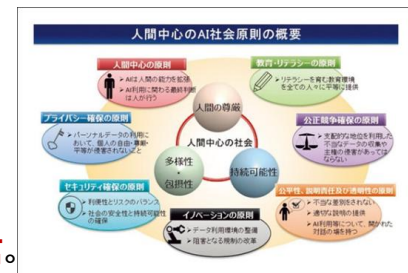


中川 裕志

AI倫理指針の作成への参画、普及への貢献

[G20, OECD 等に提案]

AIが普及する社会に向け、AI技術が行き渡った社会における法・社会制度の調査・分析、将来像を検討。**内閣府の人間中心社会AI原則の執筆(分担)をはじめ、国際的なAI倫理指針の作成に向けた会議に参画、G20・OECDの指針作成等提言。**



- 主要な国際学会での論文採択数、さらには採択論文のうちトップ数%だけが選ばれるOral/Spotlight発表も増加

AIPの採択件数

	'20	'21	'22	'23	'24	'25	'26	Note
NeurIPS	21	17	23	35	41	46		'20: Oral 2 (top 1%), Spotlight 7 (3%), '21: Spotlight 1 (3%), '23: Spotlight 1 (3%), '24: Spotlight 3 (2%), '25: Spotlight 4 (3%)
ICML	18	26	11	23	37	29	35	'21: Long 5 (3%), '22: Long 3 (2%), '23: Oral 2 (2%), '24: Oral 1 (2%), '25: Spotlight 2 (3%)
ICLR	4	9	12	7	19	29	34	'21: Best Paper 1 (0.3%), '22: Best Paper Honorable Mention 1 (0.3%), '23: Oral 2 (6%), Spotlight 1 (2%), '24: Spotlight 4 (5%), '25: Oral 1 (2%)
AISTATS	10	17	7	7	7	17	14	'25: Oral 1 '26: Oral 1, Spotlight 2

2015年以前（理研AIP開始前）：

- ・日本からの主要国際会議への論文採択はごくわずか
- *日本全体の採択件数（2015年）NeurIPS：8、ICML：9、ICLR：1
- ・Oral発表等への採択はほぼ皆無

現在：論文や口頭発表の数が大幅に増加

■ ボードメンバー、大会長、プログラム委員長などを務めるとともに、招待講演（Keynote, Plenaryセッションでの登壇）などを通して、世界でのAIPの存在感を示している

■ Board Member

ICML(2025-)

Masashi Sugiyama

NeurIPS (2016-2022, 23-Advisory)

Masashi Sugiyama

ACML (2010-2021, 22-Honorary member)

Masashi Sugiyama

■ General Chair

AISTATS2026

Emtiyaz Khan

ACML2019

Ichiro Takeuchi

PAKDD2023

Naonori Ueda

ACML2017

Masashi Sugiyama

EMNLP-IJCNLP2019

Kentaro Inui

NeurIPS2016

Masashi Sugiyama

■ Program Chair

AISTATS2025

Emtiyaz Khan

ACML2020

Masashi Sugiyama

IEEE-CAI2024

Masashi Sugiyama

AISTATS2019

Masashi Sugiyama

ICLR2024

Emtiyaz Khan

ACML2019

Taiji Suzuki

ACML2022

Emtiyaz Khan

PACLING2019

Koiti Hasida

ACMMM-Asia2021

Tatsuya Harada

ACML2018

Ichiro Takeuchi

■ Keynote, Plenary Talks

AISTATS2026

Taiji Suzuki

ICDM2021

Masashi Sugiyama

IEEE-WCCI2024

Masashi Sugiyama

PACLING 2019

Kentaro Inui

ALT2023

Taiji Suzuki

ACML2019

Tatsuya Harada

AIED2023

Kentaro Inui

IWAENC2018

Masashi Sugiyama

ICLR2023

Masashi Sugiyama

ICONIP2018

Masashi Sugiyama

ACPR2023

Tatsuya Harada

CCF-ICAI2018

Masashi Sugiyama

ICCOPT2022

Akiko Takeda

ALT-DS2017

Masashi Sugiyama

MaxEnt2022

Emtiyaz Khan

DS2017

Koji Tsuda

COLING2022

Kentaro Inui

MEET THE DATAIII2017

Naonori Ueda

ACML2022

Taiji Suzuki

CCAI2017

Masashi Sugiyama

	FY '19	FY '20	FY '21	FY '22	FY '23	FY '24	FY '25
CELL	0	0	1	0	0	0	0
Nature	0	0	0	0	0	0	1
Nature Communications	2	7	1	3	1	1	2
Nature Genetics	0	0	1	0	0	2	0
Nature Aging	0	0	0	1	0	0	0
PNAS	1	1	0	0	0	0	0
Science	1	0	0	0	0	0	0
Science Advances	0	0	1	0	0	0	0
International Journal of Molecular Sciences	0	0	1	1	0	0	0

国際的な受賞（国内の賞も多数受賞）

- FY2018 ・2018.04.11 AISTATS2018 Best Paper Award
 ・2018.04.20 CHI2018 Honorable Mention Award
- FY2019 ・2019.05.21 IEEE-ICASSP2019
 Best Student Paper Award
 ・2019.08.06 SIGGRAPH2019 Jury Prize
 ・2019.11.21 ACML 2019 Best Paper Award
 ・2020.02.26 AAAI-20 Outstanding Paper Award,
 Honorable Mention
- FY2020 ・2020.10 IEEE Systems, Man, and Cybernetics 2020 Awards
- FY2021 ・2021.04.01 ICLR 2021 Outstanding Paper Award
- FY2022 ・2022.01.14 HPC ASIA 2022 Best Paper Award
 ・2022.04.22 ICLR 2022 Outstanding Paper
 Honorable Mention
 ・2022.09.21 ECMLPKDD 2022 Test of Time Award
- FY2024 ・2024.02.02 MMM 2024 Best Demonstration Award
- FY2025 ・2025.7.25 AIED Best LBR Paper Award
 ・2025.7.31 ACL 2025 Outstanding Paper Award
 ・2025.10.23 IEEE Andrew P. Sage
 Best Transactions Paper Award
 ・2025.10.30 ACM Multimedia 2025 Honorable Mention

- AIPで育成した優秀な人材を国内外の企業、大学、研究機関等へ積極的に輩出し、国際的な頭脳循環の一端を担っている
- 2025年度末までに**延べ224名**を輩出

AIP 任期職員の主な転出先

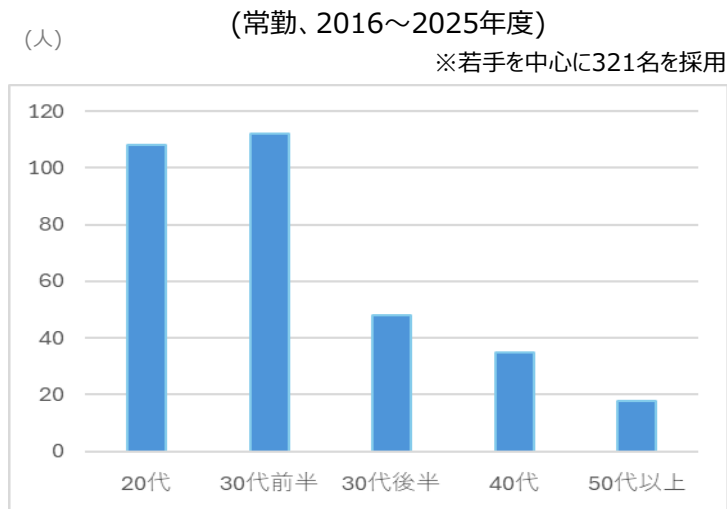
教授：九州大学、岡山大学、長崎大学など

准教授：東京大学、東北大学、名古屋大学、東京工業大学、広島大学など

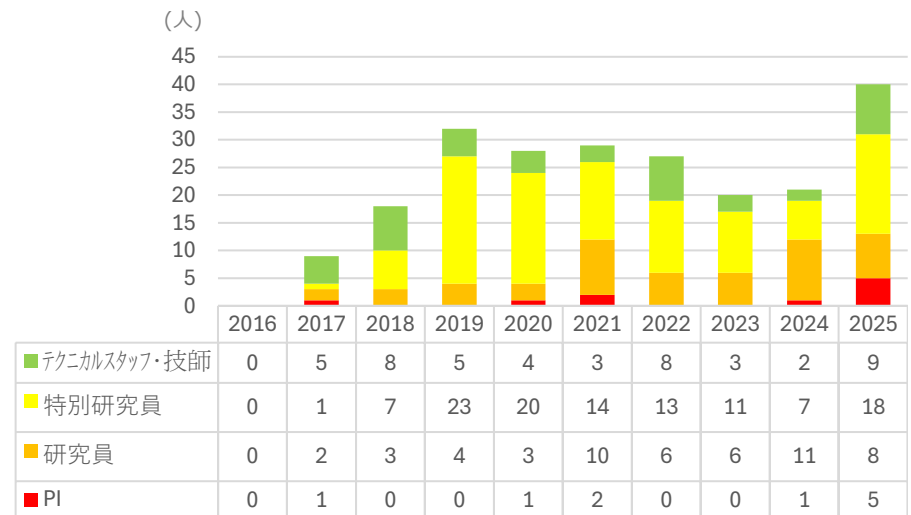
海外（Associate Prof. Assistant Prof.）：Univ. of Queensland, Maastricht Univ., Indian Institute of Technology Mandi, Shanghai Jiao Tong Univ., Ulsan National Institute of Science and Technology, Southeast Univ., Southwest Jiaotong Univ. Telecom Parisなど

国内外の大学に加え、企業にも多くの人材を輩出

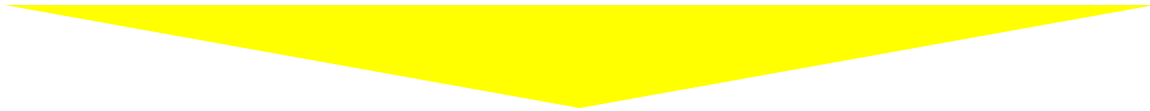
AIP 職員の採用年齢実績



AIP 任期職員の転出実績 (年度別)



- 10年間のAI研究を通して見えてきた、新開拓の必要性
 - 科学研究としての機械学習の本質の理解とアルゴリズムの構築
 - 我が国の科学研究強化に資するドメイン指向AI技術の開発
 - 日本の強みを活かした物理世界AIの展開
- 国際的研究拠点としての人材育成と頭脳循環推進の継続
 - 我が国のAI研究を牽引する高度AI人材の育成
- 理研内他センター・領域間連携の促進
 - 理研のAI研究センターとしての位置づけ、AI for Scienceの推進



- グループを再編し研究を加速
 - マセマティカルインテリジェンスグループ：
先端的の機械学習技術の数理的な解明、高信頼機械学習の新概念の創出
 - ドメインインテリジェンスグループ：
科学や産業などのドメインに特化した新しいAI技術の開発
 - フィジカルインテリジェンスグループ：
物理世界の多様なデータに対応した実用的なAI技術の開発

Domain Intelligence

科学や産業などのドメインに特化したAI技術の開発

微分方程式, 作用素, シミュレーション, 検定, 言語理解, 自然災害, 医療, 材料, 生命



上田 修功

Physical Intelligence

物理世界の多様なデータに対応した実用的なAI技術の開発

基盤モデル, 環境理解, 説明性, 非線形動力学, エッジ計算, 分散計算, ロボット, グラフィックス



原田 達也

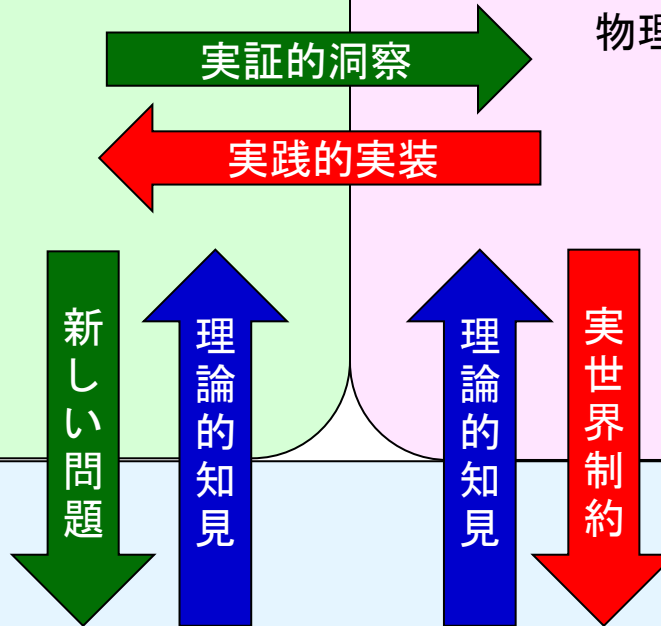
Mathematical Intelligence

最先端の機械学習技術の数理的な原理解明と、高信頼機械学習の新概念の創出

学習理論, 計算量, 近似計算, 情報理論, 動的システム, 統計力学, ゲーム理論



杉山 将



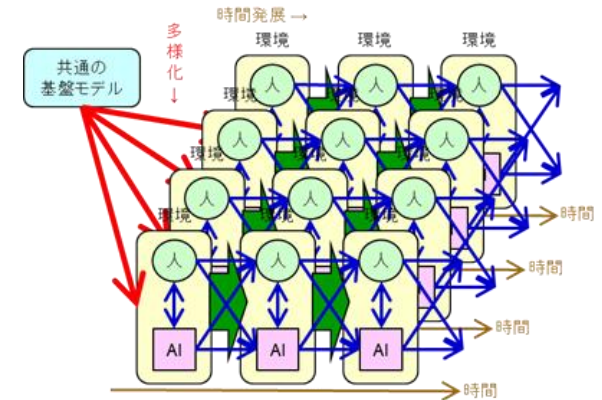
社会共進化型知能システムの実現に向けた数理基盤の確立

背景：機械学習は従来の規模拡大から大規模モデルとデータを用いた新パラダイムへ移行

- 予測能力は向上しているが、多くの未解決課題が存在
- 実世界の変化に対応し、多様なユーザやタスクに適応した個別化・特殊化の必要性

➤ これまでの理論的蓄積を基盤にし、先端機械学習技術の理論を開発、実社会での応用を加速

- ◆ テスト時推論におけるスケーリング則の理論解明と、飛躍的な効率化を実現するアルゴリズムの開発
- ◆ 多数のモデルが混在する大規模システムにおける高効率な最適化アルゴリズムの開発
- ◆ 弱教師付き学習理論、ロバスト学習理論、適応学習理論の技術を基盤モデルの事後学習へ応用するとともに、時間変化する環境への適応や逐次的意思決定へ適用可能な形へと発展
- ◆ 潜在共通原因が存在してもデータ駆動で因果構造を探索できる新技術を開発、因果推論は介入実験を行うサイエンス研究において中心的役割を担う機械学習技術であり、AI for Scienceを加速
- ◆ ベイズ学習規則を時間変化する環境に適応可能な形へ拡張
- ◆ 多数のモデルの協調、多様なモデルが共存する大規模システムの安定運用、敵対的攻撃への対処、公平性の保証といった課題を、新たな研究テーマとして位置付け体系的に取り組む

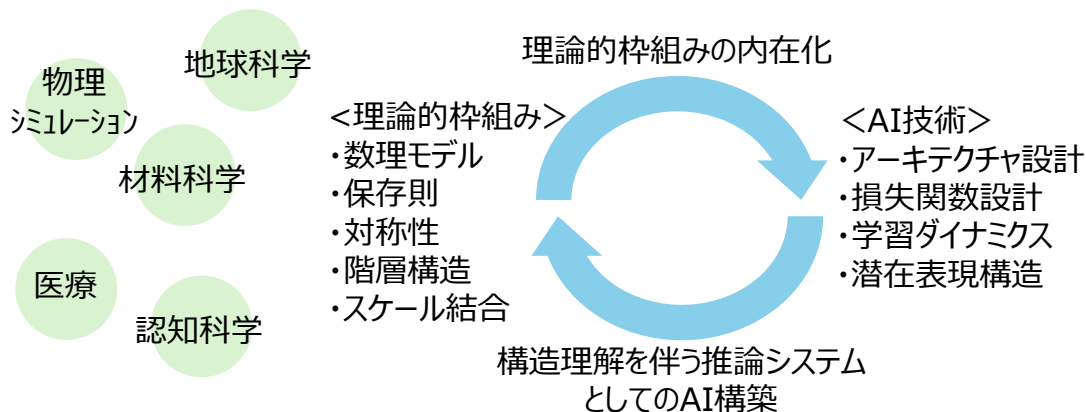


AI for Scienceの技術高度化を超える知的基盤構築

背景：生成AIの発展を背景に急速に拡大する一方、課題の顕在化
 (理論的制約と整合しない高精度予測は科学的妥当性を損なう可能性)
 →生成AI中心の潮流から、科学的整合性と外挿可能性を備えたAIへの転換
 理論を内包した推論基盤として再設計。構造理解を伴う推論システムとしてのAI構築

➤ 科学の原理に根ざした新しい AI 技術の創出

性能向上による研究開発の加速 + 質的転換



物理情報学習×地殻変動の研究



ドメイン理論から再構築するAI: 地殻変動解析における実証例

従来からのアプローチに加え、物理法則をはじめ、科学理論そのものをAIモデルの設計・学習過程に組み込み、新しいAI技術を創出し、解決困難であった問題領域へ踏み込んだ検討を可能にする。

- ◆ 医学・医療の生体・先制医療シミュレーション
- ◆ 防災の地震・気象解析
- ◆ 物理法則を満たす高精度シミュレーションと作用素学習
- ◆ 宇宙観測データに基づく物理深層モデル
- ◆ 生命科学における動的な生命システム解析 など

適応的かつ頑健な物理知能の構築とAIロボットへの応用

背景：日本における、深刻な労働不足と高齢化の進行、ロボットによる作業代替が不可欠。

- 米中ではロボット基盤モデルの研究開発が急速に進展。日本では基盤モデルそのものの研究開発を抜本的に加速する必要性、技術的なボトルネック
- 社会実装を阻む構造的課題（予測困難な環境変化に対する脆弱性、新規タスクへの汎化性能の不足、安全性・透明性・セキュリティに関する設計原理の未成熟）

➤ 物理知能情報処理およびAIロボットシステムに関する研究を推進

物理知能情報処理

- ◆ 多様な実環境に対応する物理知能モデルの構築と、世界モデル、物理シミュレーション、Web知識資源等を活用した状況理解・推論・計画能力の強化
- ◆ 器用作業の高品質データ獲得のため、柔軟触覚センサやモーションキャプチャなどを統合した計測基盤を構築し、多様な作業スキルデータを効率的に収集可能に
- ◆ エッジ環境でモデル分割や協調型推論を活用し、リアルタイム応答と深い思考を両立。少量データや未知状況下での性能劣化を抑え、現場で継続的に学習・適応可能な枠組みを構築
- ◆ 安全制約付き行動生成を実装、脅威分析に基づくセキュリティ設計を推進

AIロボットシステム

- ◆ 実世界タスクの遂行を通じてシステム全体の有効性を検証
- ◆ 限られた計算資源下でも学習・推論をリアルタイムに実行可能な計算フレームワークを構築し、現場での即時応答と継続的適応学習を両立
- ◆ マルチモーダル知能を実装した実機ロボットによる実証実験を実施、実環境への適用性を定量的に検証、自己完結的に更新・進化させるロボット知能基盤を確立

組織図(2026-)

2026年4月現在

センター長

副センター長

センター長室

マセマティカルインテリジェンスグループ (杉山 将 グループディレクター)

不完全情報学習チーム	動的システム学習チーム	テンソル学習チーム	圧縮情報処理チーム	深層学習理論チーム	計算論的学習理論チーム
杉山 将	河原 吉伸	Qibin Zhao	田部井 靖生	鈴木 大慈	畑埜 晃平
因果推論チーム	適応ベイズ知能チーム	連続最適化チーム	数理科学チーム	経済経営情報融合分析チーム	人工知能安全性・信頼性ユニット
清水 昌平	Mohammad Emtyaz Khan	武田 朗子	坂内 健一	星野 崇宏	荒井ひろみ
高次元構造理論チーム	逐次的意思決定チーム	不確実性定量化チーム	情報統計動力学チーム	計算的社会選択理論チーム	
今泉 允聡	伊藤 伸志	二見 太	坂田 綾香	五十嵐 歩美	

ドメインインテリジェンスグループ (上田 修功 グループディレクター)

AI医用工学チーム	分子情報科学チーム	認知行動支援技術チーム	防災科学チーム	マルチモーダル視覚知能チーム	データ駆動型実験デザインチーム
浜本 隆二	津田 宏治	大武 美保子	上田 修功	岡谷 貴之	竹内 一郎
遺伝統計学チーム	生命空間医科学チーム	自然言語理解チーム	空間情報学チーム	音楽情報知能チーム	計算物理機械学習チーム
田宮 元	山本 陽一朗	乾 健太郎	横矢 直人	浜中 雅俊	谷口 隆晴
統計宇宙科学チーム	化学反応情報学チーム				
吉田 直紀	瀧川 一学				

フィジカルインテリジェンスグループ (原田 達也 グループディレクター)

実世界知能チーム	人工知能セキュリティ・プライバシーチーム	ロボットラーニングチーム	ロボットシステムチーム	AIコンピューティングチーム	三次元環境情報理解チーム
原田 達也	佐久間 淳	長 隆之	岡田 慧	高前田 伸也	金崎 朝子
説明可能AIチーム					
谷中 瞳					

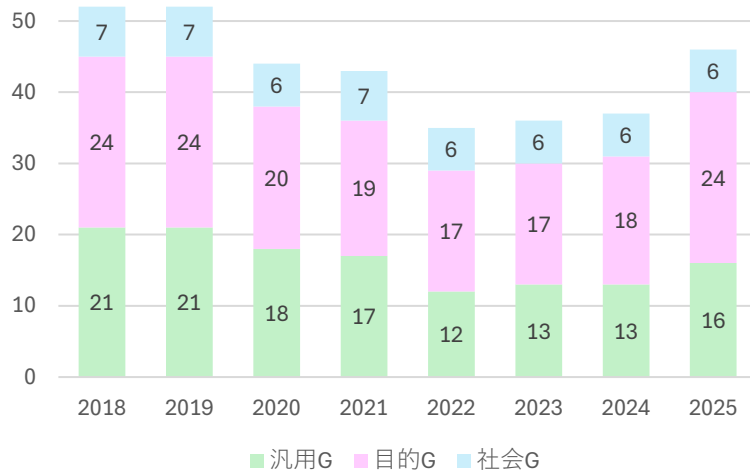
計算支援運用ユニット

参考資料

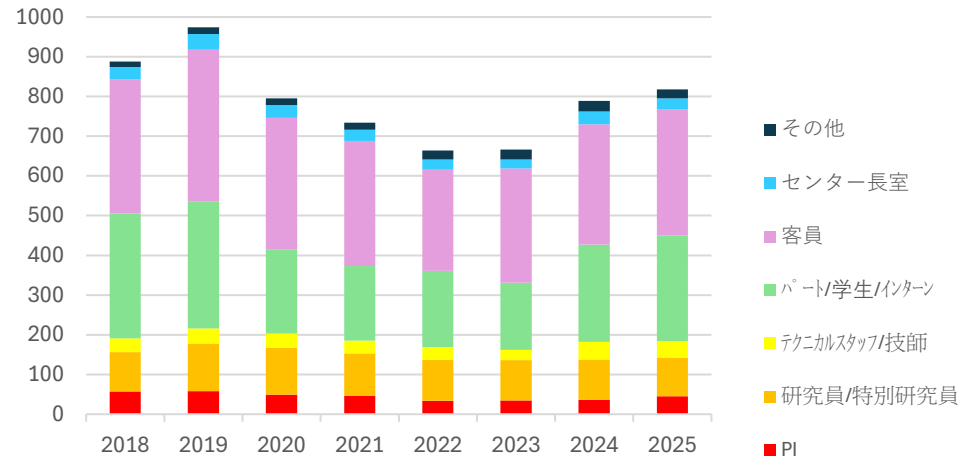
統計情報：

チーム数と人員数の推移：

チーム数



人員数



- 共同研究契約件数：計69社の民間企業、計94ヶ所の研究機関・大学（海外大学含む）・病院等の公的機関と共同研究を実施
- 国際ワークショップ等：海外の大学・研究機関等とのMOUを締結し、多数の機関とシンポジウムやジョイントワークショップを開催。**人事交流、連携研究等を促進**



■ セミナーによる研究成果の発信

- **AIPオープンセミナー**
2020年11月～2021年9月（全43回）
AIPセンターの各チームの研究成果をセミナー形式で毎週発信
- **EPFL CIS 理研AIPジョイントセミナー**
2021年10月～2022年7月（全17回、2回のワークショップ）
スイス連邦工科大学のインテリジェントシステムセンター（EPFL CIS）と公開セミナーを実施
- **Trust ML Young Scientist Seminars**
2022年1月～（100名以上のスピーカーが実施）
信頼できる機械学習に関連する研究に関する若手研究者による講演
- **AIP AI4S(AI for Science) Seminar Series**
2026年2月～



■ 中高生向けの発信

- **女子中高生に向けたオンラインセミナーを開催**
2022年1月、2022年12月～2023年1月（6回）
数理系目指す女子学生向けに「数理・情報・AI」の魅力を発信

集まれ！数理・情報・AI系をめざす女子中高生
女子中高生向けオンラインセミナーシリーズ
 オンライン開催 | 講演＆質問コーナー
 2022年10月～2023年1月まで(予定)
 研究者ってどんな人？
 どんな研究をしているの？
 オンライン開催 講演＆質問コーナー
 2022年10月～2023年1月
 全6回

■ 講演会やセミナーはオンラインで多数公開:

<https://www.youtube.com/channel/UCipPccqvcfychnKNOaYUokyQ>

400本以上の動画、AIPチャンネルの登録者数 2300人超



■ 中高生のためのオンラインセミナーシリーズの実施

- 第1回 未来を変えるデータサイエンスと新しい学び方(2025年10月9日)
- 第2回 みんなの意見を大切に作るAI—「多数決」が苦手な場面でも活躍するAIって?(2025年10月25日)
- 第3回 AIで支える赤ちゃんの心臓の未来(2025年11月11日)
- 第4回 ロボットが見て、聞いて、考える時代へ(2025年12月2日)



未来を変えるデータサイエンスと新しい学び方
大妻女子大学 DS学部
理研AIP
小野陽子
理研AIPダイバーシティセミナー 第1回

■ RIKEN AIP Diversity Seminarの実施(2025年10月8日)

- Talk by 桂ゆかり 「大規模データで直観的に変える無機材料科学」
- 場所: NIMS/筑波大学

■ 数理情報系女子学部生サマーキャンプ(2025年9月7~9日)

- 場所: 大学セミナーハウス(東京都・八王子市)

■ 大学学部生のためのワークショップの実施 (2025年11月19日)

- 『AI × 未来 × キャリア』研究者と語る対話型ワークショップ
- 場所: 大妻女子大学千代田キャンパス



■ 「第11回女性技術者育成功労賞」において個人優秀賞を受賞(2025年11月19日)

- AIPセンター小野陽子主管研究員
- 一般社団法人技術同友会主催



■ Ada Workshop共催(2025年6月7日)

- Microsoft Research Asia主催

■ AWESOME Challenge(2025年度実施)

- 大阪府、兵庫県のSSH指定校(主に女子)を対象にしたイベントにAIPから講師を派遣。

■ 海外の大学・研究機関等とのMOUを締結し、多数の機関とシンポジウムやジョイントワークショップを開催。人事交流、連携研究等を促進

- | | |
|--|--|
| Mar. 2026: IIT Hyderabad (Online) | Mar. 2023: Fraunhofer IIS (Nuremberg) |
| Nov. 2025: A*STAR-CFAR (Tokyo) | Mar. 2023: A*STAR-CFAR (Tokyo) |
| Jul. 2025: The University of Sydney (Sydney) | Dec. 2022: A*STAR-CFAR (Singapore) |
| Jul. 2025: The University of Melbourne (Melbourne) | Jun. 2021: Alan Turing Institute (Online) |
| Apr. 2025: A*STAR-CFAR (Singapore) | Mar. 2021: University of Technology Sydney (Online) |
| May 2025: Nicolaus Copernicus University (Torun, Poland) | Dec. 2019: University of Freiburg, etc. (Tokyo) |
| Mar. 2025: Vector Institute (Toronto) | Sep. 2019: Istituto Italiano di Tecnologia (Genova) |
| Mar. 2025: University of Washington (Seattle) | Sep. 2019: Alan Turing Institute (Edinburgh) |
| Sep. 2024: KAIST (Seoul) | Sep 2019: Berlin Big Data Center, etc. (Berlin) |
| Aug. 2024: Shanghai Jiao Tong University (Tokyo and Online) | Jul. 2019: Georgia Institute of Technology, etc.(Tokyo) |
| Jun. 2024: A*STAR-CFAR (Singapore, Tokyo and Online) | Jun. 2019: Major Universities in Taiwan (Taipei) |
| Jun. 2024: Nanjing University (Nanjing, China) | May 2019: The Hong Kong Polytechnic University (Hong Kong) |
| May 2024: Istituto Italiano di Tecnologia (Tokyo and Online) | |
| May 2024: Hong Kong Baptist University (Hong Kong) | |
| Nov. 2023: INSAIT(Sofia, Bulgaria) | |
| Sep. 2023: Nicolaus Copernicus University(Torun, Poland) | |
| Jul. 2023: Bar-Ilan University(Tokyo) | |
| Apr. 2023: MBZUAI(Online) | |
| Mar. 2023: Vector Institute (Online) | |
| Mar. 2023: PRAIRIE (Tokyo) | |
| Mar. 2023: EPFL-CIS (Lausanne) | |

